

平泉駅に再展示 弾痕残る手すり

太平洋戦争末期の米軍機による機銃掃射の弾痕を残す手すりの引き渡し式（世界平和を願う平泉の会主催）が8月15日、JR平泉駅で行われました。

同会発起人の千葉繁同駅長のあいさつに続き、手すりを保管していた奥州市の太平洋戦史館の岩淵宣輝会長が、町民代表の沼田満里さん、智里さん姉妹（共に平泉小3年）らに手すりを手渡しました。

手すりは待合室の保管ケースに展示され、中尊寺、毛越寺の僧侶が法要を行い、平和を祈りました。



入館者が早くも1万人 平泉文化遺産センター

平泉文化遺産センターの入館者が8月3日、1万人を達成し、記念式が行われました。開館から112日目です。

1万人目となったのは、神奈川県川崎市の大学生・各務結さん＝写真左から2人目＝。大矢邦宣館長が同センター玄関で「1万人目おめでとうございます」と声を掛け、くす玉を割り記念品を贈って節目の来館を祝福しました。

各務さんは「わたしでいいんですか。昨日は誕生日だったのでびっくり」と幸運を喜んでいました。



文化を伝える紙芝居 平泉中美術部が制作

平泉中美術部（部員17人）の生徒が8月中、平泉文化の価値を子どもたちに分かりやすく伝える紙芝居「みんななかよし ひらいずみ」の制作に取り組みました。県南広域振興局による啓発事業の一環。一関市東山町産の東山和紙13枚に描き、8月末までに完成させます。

作業3回目の17日には、同振興局に東山和紙を寄贈した中尊寺の山田俊和貫首が美術部を表敬訪問。色遣いの感性に感心しながら「紙芝居を鑑賞する子どもたちのために、頑張っている作品にしてください」と激励しました。



交通事故防止を 「梅干作戦」展開

町交通安全母の会連合会が主催する「梅干作戦」が8月8日、中尊寺第1・第2駐車場の出入り口付近で行われました。

お盆の帰省や夏の行楽に伴う交通事故の防止を呼び掛けようと毎年実施しているもの。例年平泉前沢インターチェンジで行っていましたが、ETCの休日割引が始まった今年は車の流れを妨げないように、同駐車場に変更しました。

参加者はドライバーに「眠気覚ましに」と梅干しを配り、無事故を願いました。



中尊寺法泉院でキャンプ 文化財愛護少年団が開催

文化財愛護少年団（団員19人）のキャンプが8月8～9日にかけ、県指定文化財・中尊寺法泉院庫裏で団員13人が参加して行われました。

いろいろでの火起こしや早朝のぞうきんがけ、座禅などを通して文化財愛護の心をはぐくみ、長崎の原爆投下時刻には平和を祈り黙とうしました。



二戸市内の児童と交流 きらめきリーダー研修

町内の児童が町外児童と交流する宿泊研修「21年度きらめきリーダー研修」が8月6～7日にかけ、二戸市で行われました。

平泉小から児童18人が参加。二戸市内の5校18人の児童とレクリエーションやまちづくりのワークショップなどを行って交流を深めました。



安全、快適な道路を 「道の日」に奉仕活動

（社）岩手県建設業協会一関支部平泉地区会員（5業者）は「道の日」の8月10日、快適な道路環境の維持を目的に、町道鈴沢線で街路樹の枝打ちや歩道の清掃を行いました。

約3時間の作業で、鈴沢線は見通しと美しさを取り戻しました。



戦争のない世界願う 平泉町戦没者追悼式

町主催の戦没者追悼式が8月11日、平泉文化遺産センターでしめやかに営まれました。

太平洋戦争での町内の戦没者は305人。参列した遺族など約100人は、祭壇に花を手向けて静かに手を合わせ、戦争の犠牲となった肉親や先祖のめい福を祈っていました。